

District 2770



イマジン

ロータリー

会長：小林 賢弘
幹事：北林 隆一

Weekly Report

2022~2023 越谷東RC運営方針

●感謝と恩返しの輪を広げよう

2022~2023 RIテーマ

●イマジン ロータリー

越谷東
ロータリークラブ

創立1987年5月18日



〈例会日〉 毎週木曜日 12:30~13:30

〈事務局〉 〒343-0813 越谷市越ヶ谷3-7-1 (NTT東日本 越谷ビル2F)

☎ 048-965-2037 ☎ 048-965-2011

<http://www.koshigayahigashi-rc.org/> E-mail:info@koshigayahigashi-rc.org

第1722回例会 2023年3月2日

司会：会場運営委員会／守屋トミー
会報No.1511号／担当：委員一同

会員数：56名／出席数：33名
出席率：66.00%

水と衛生月間

- ◆黙 禱
- ◆開会点鐘 会長 小林 賢弘
- ◆国歌斉唱 「君が代」
- ◆ロータリーソング斉唱 「我らの生業」
- ◆クラブソング斉唱 「クラブ賛歌」(1番)
- ◆四つのテスト 職業奉仕委員会 南 千加江
- ◆結婚記念日・誕生日祝 親睦友愛委員会 大野 豊次
- ◆会長挨拶 会長 小林 賢弘
- ◆幹事報告 幹事 北林 隆一
- ◆委員会報告 IM記念ゴルフ実行委員会 会田 皓章
- 国際奉仕委員会 宮下 智之
- 親睦友愛委員会 宮本 正行
- ◆卓話 「青少年交換委員会の現状」 守屋トミー
- ◆スマイル報告 社会奉仕委員会 石渡 毅
- ◆出席報告 出席委員会 栗田 晴巳
- ◆閉会点鐘 会長 小林 賢弘

会長挨拶

会長 小林 賢弘

「私について語る」シリーズ3回
目の今日は「剣道部死闘篇」をお送
りします。前回の「IQ160の神童篇」
で小学生時代をお話ししたところ、
何人かの会員から「IQ160ってすご
いね!」とのお声をいただきました。



しかしながらこれまでの人生、お金儲けは下手だし学
歴がいい訳でもない、IQによって得したこともなけ
れば良い思いをしたこともない。全く無駄に高かった
と言えます。

さて母と担任の説得に負けて渋々入学した中学で私
は剣道部に入部します。これは当初、将来のプロレス
ラーへ向けて柔道部に入ろうと思っていたのですが、
五厘刈りの坊主頭にならなければいけないという理不
尽な入部条件によって、頭髪制限のなかった剣道部に
妥協したためでした。ここで私は剣道の面白さと奥深
さに夢中になって打ち込みます。中学の3年間は剣道
の稽古とレスラーになるためのトレーニングに明け暮
れあつという間に過ぎ去ります。

エスカレーター式に高校へ進んだ私は引き続き剣道
部に入部し、より高みを目指します。当時2つ上の先
輩の3年生が、剣道部史上最強メンバーと騒がれてい
ました。事実埼玉県大会を初優勝し、インターハイで
準々決勝まで勝ち残り、優勝したPL学園に敗れまし
たが、堂々の全国ベスト8という最強の先輩方でした。
1年上の2年生が弱かったので、私達1年生に期待し
てくれて強化のため徹底的にしごかれました。私の代



スマイル報告

社会奉仕委員会 石渡 毅

今 回 25,000円

累 計 633,500円

次の例会の案内

第1723回 3月9日

ロータリーの友紹介

卓話:「アルジェリアへの出張」秋山 坦 会員

は中3の都大会で早実に敗れてベスト16までしか行けませんでした。2年生があまりに弱かったため、2軍のレギュラーは全員私達1年生という状態でした。同期の中で一番身長が高かった私は、上段の候補として最強の3年生の中でトップの実力を持つ坂西さんという先輩に同期とは別メニューのマンツーマンで鍛えられます。上段というのは「上段の構え(左諸手上段)」のことで、剣道の構えにはオーソドックスな「中段の構え」の他に「上段・青靨・下段・八相・脇・霞・右諸手上段・片手上段・右手前上段」などがありますが選手のおほとんどが中段に構えるため、上段がチームに一人いると相手は対上段に慣れていないためやり辛くポイントゲッターとなれるケースが多いのです。

突きを怖がっては上段は務まらないという理屈から、上段育成メニューの第一歩は原始的で残酷なものでした。素振り用の太い竹刀を下から構えた坂西さんに対して、私は上段から面を打っていきます。そこを思い切り踏み込んでの突きをカウンターで受け続けるのです。これを1日100本続けていると、あばら骨はヒビだらけで胸の筋肉はどす黒く腫れあがり遂には皮膚が破れて練習が終わって道着を脱ぐと血まみれになっています。

継続は力なりといいますが、ひと月も経つともんどりうって後ろに倒れる前に私の打った面が坂西さんに当たるようになってきます。3か月後には練習試合で上段で一本が取れるまでになりました。この間は家に帰ってから10の素振り用の八角木刀を左手一本で100本振るノルマを続けました。私の左腕は右腕の1.5倍程の太さになります。さすがにこの頃は時間的にも肉体的にも限界に達していて、プロレスラー必須の腕立て・腹筋・スクワット1,000本は半分ほどに減らしました。

練習が終わるとボロボロになっている私を同期の1年生から同情されるほどの地獄の半年でしたが、上段でレギュラーを取ってやると本気で思えるほどに成長し充実した毎日でした。しかし良い事ばかりは長くは続きません。3年生に徹底的にしごかれて日に日に強くなっていく私たちに対してまるで眼中になかった2年生のジェラシーが爆発してしまいます。3年生の私へのしごきははじめだと顧問の教師に告げ口したのです。私の体の状態を見た教師は驚き、3年生を強制的に引退させてしまいました。エスカレーター式に大学に行ける学校なので、受験のため夏が終わると引退という習慣はなく、通常公式戦以外は卒業まで練習を続けていました。強制引退させられた3年生は大学の道場へ練習に行くようになり、1・2年生だけの練習が始まりました。最強の3年生にしごかれていたからこそ充実していた練習は突然生温いつまらないものになってしまいました。緊張の糸が完全に切れた私は、冬休みの寒稽古をさぼって地元の友達とスキーに行ってしまう。3学期が始まり何食わぬ顔で開き直って練習に復帰した私に待っていたのは想像を絶する陰湿でねちねちとした2年生の報復でした。体育会の上下関係は絶対的ですから歯向かえないのいいことに「お

まえはもうクビだ。辞めたくなければ頭を5厘に丸めて来い」と言われ、練習では無視され続けたかと思うと、かかり稽古で私だけを止めて5・6人で陰湿にしごき抜きます。味方だと思っていた同期の1年生は私がさぼった寒稽古で連帯責任と言われて冬休み中ずっと陰湿にやられていたので、ざまあみろという顔で見えています。大切なものを失ってしまったショックに打ちのめされている私に更にねちねちとしたしごきが続きます。倒されて面を脱がされ顔を足で踏みつけられ、そこを竹刀で上からぐりぐりと突かれていた時に、私の中でプチッと音を立てて何かが切れました。立ち上がった私はその2年生の背後に回り、へそで投げる急角度のバックドロップで床に叩きつけました。プロレスラーのプライドを持つ私の最も完成度の高い得意技でした。そこから先はもう無茶苦茶で細かくは覚えていませんが、剣道部全員を敵に回しての修羅場が始まります。7・8人に押さえつけられてボコボコに殴られ鼻血まみれになった私は、この人数相手ではどうにもならないと思道場の外へ走って逃げ出しました。人間の集団心理というのは恐ろしいものです。1・2年生15・6人が全員木刀を持って血走った眼で私を追いかけきます。3人に囲まれ木刀で滅多打ちにされた時に生まれて初めて死を意識しました。頭が切れて大流血しながら、奪った木刀を振り回して最悪の事態を回避できた私は逃げ回り続け、体育館の屋根に登って隠れていました。一步間違えたら殺人事件にまで発展したかもしれない恐怖に震えながら1時間ほど屋根の上から下の世界を見ていたら、剣道部の騒ぎに気付いた柔道部や空手部、応援団まで集まってきて収拾の着かない大騒ぎになっていました。やがて教師が10数人出てきて、剣道部の人間は道場に連れて行かれ、漸く事態が収拾されたのを見計らって着替えを取りに部室の窓からそっと入ろうとしていたところを教師に見つかってお縄となりました。1・2年生全員が正座させられていて事情聴取を受けていました。私の聴取は翌日とされ病院へ直行となりました。前頭部5針縫う裂傷と肩甲骨と脛の骨折、全身打撲という診断で入院は免れましたが全治2ヶ月の傷を負いました。1週間の停学者15人を出す学校創立以来最大の不祥事となりました。警察沙汰にはなりませんでしたが、両親まで呼ばれての面接の後、更生目的の面接が何度も続きいい加減うんざりしていました。その後道場に呼ばれ部員全員からの謝罪を受けましたが、すでに吹っ切れていた私は、元はと言えば自分が蒔いた種でもあり、誰も恨むことはなく「剣道はお前たちにまかせた。おれはプロレスラーになる」と1年生の皆に伝えて退部届を出しました。

ここから私のプロレスラーになるためのトレーニングが本格的に始まります。8月にお話したプロレス応援挨拶の「10歳からプロ篇」「新日本プロレス道場篇」へと繋がるのです。

今日の「剣道部死闘篇」少し血生臭い話となりましたが、次回は大学生になって次に見る夢「バンドマン篇」をお届けする予定です。

青少年交換委員会の現状



守屋トミー

本日は貴重な例会の時間にお招きいただき、本当にありがとうございます。この時間をお借りし、青少年交換の現状を少しお話させていただきます。

2770地区と青少年交換委員会

1927年フランスのニースのロータリークラブがヨーロッパの生徒を受け入れたのをかわきりに、1939年にはアメリカ、カリフォルニアとラテンアメリカの国々が交換を開始、その交換のプログラムは1958年までにはアメリカ東海岸にまで広がりました。そして、1974年のRI規定審議会において公式プログラムに認められた国際青少年交換プログラムは、数あるロータリー活動の中でも最も価値ある活動とされ、世界各国の地区が真剣に取り組んでいます。現在、約80ヶ国がこのプログラムに参加し、年間に7,000人以上の16歳から18歳の若者がロータリーと地域のサポートのもと、1年間の留学経験をしています。日本からは約400人（毎年減っています）が留学を体験しています。

とても素晴らしいプログラムですが、どのプログラムにも良い所と問題点があります。まずは今青少年交換が直面している問題点をお話します。

1. スポンサークラブの不足

まずは皆様に知っていただきたいのは、2770地区が日本でも青少年交換活動では抜きん出ている地区の一つだということです。10年以上前の30名前後の受け入れに比べるとかなり減りましたが、それでも大変活発に交換を進めていた地区であることは事実です。それでも派遣人数は減っていました。その最も大きな要因スポンサークラブの不足です。現在埼玉2770地区には74のクラブがありますが、常にスポンサーを引き受けていただいているクラブはその中の約4割に過ぎません。常にこの4割のクラブが生徒のスポンサーになり、留学生を受け入れてくれています。

毎年、説明会に集まった保護者の皆様や生徒にロータリーの留学のすばらしさとルールを伝えます。その中に「スポンサークラブを見つけること」という大切なルールがあります。子供達は自分の地元のクラブを探し、頼みに行きます。でも、殆どが断られてしまうのです。すぐ諦める子もいますが、殆どの子供達は3つから5つぐらいクラブを回ります。そして、途方にくれて私達に連絡をしてくるのです。

幹事報告

幹事 北林 隆一

幹事報告させていただきます。

地区より「トルコ・シリア大地震救援募金」の協力要請がありました。今回要請では特に金額の指定はありません。一口1,000円を目安に本日で来週の例会で募金を募りたいと思いますのでご賛同いただける会員の皆様ご協力よろしくお願います。なお、来週の例会案内の連絡票には救援募金の欄をつけます。特に選択がない会員は、救援募金とさせていただきますと思います。

また、第8グループでの独自の物資の援助は、ルートの確保が困難となりましたので一旦中止となりました。

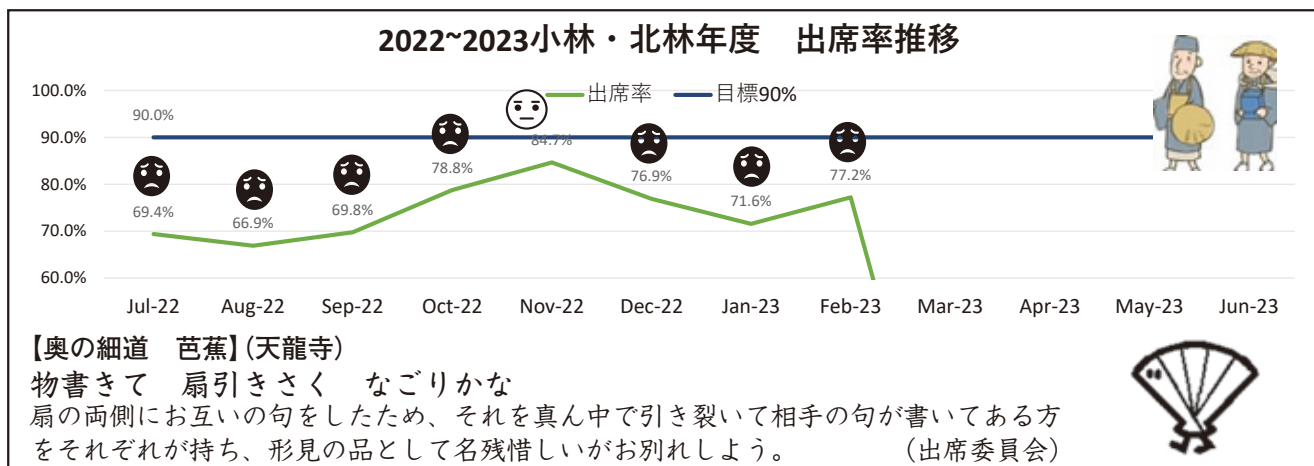


また、今年度は久しぶりに「台中港北區扶輪社37周年社長交代式」に参加するプラン（6/24～6/26）を企画しました。今回は高雄で交代式が行われます。本日もご案内させていただきますのでご検討下さい。

事務局山崎さんの状況ですが、3月末の復帰を目指しておりますが、現在のところ微妙な状況です。会員の皆様にはご不便をお掛けしますがもうしばらくよろしくお願います。

来週の例会は秋山会員による卓話「アルジェリア珍道中」を予定しています。お楽しみにして下さい。

以上幹事報告でした。



「誰もなってくれません」と寂しそうな声で・・・。
そこで私達が走り回ります。子供の夢を叶えてやりたいからです。普段やってくれていて、その年「休憩」を考えているところに押しかけ、頭をさげ、お願いします。そしてスポンサーになっていただきますが、どうしても駄目で、諦めるよう子供達や保護者に伝えるときはとても辛いものがあります。

スポンサーができない理由はたくさんあると思います。ホストファミリーの問題、資金の問題。ただ、どれも実は解決策があります。大切なのは子供達の夢を叶えてやろうという「気持ち」です。

このプログラムをある限り、毎年学校にはロータリークラブ名の入ったポスターが配ら、学校も子供がそれに参加する意志があり、動いているのを知っています。なのに、実際にロータリーを訪ねると・・・。本当にこれでいいのでしょうか。募集していたから行ったのに、実際に頼んだら、誰もやってくれない。これがロータリーの姿として映るとすると、とても悲しいことです。

ここからは、このプログラムの良さを聞いていただきたいと思います。

まずはアウトバウンド、日本からの派遣生についてお話します。派遣生は帰国すると自動的に「ローテックス」というグループに所属することになります。Rotary Exchange Studentの略称です。彼ら、彼女らは帰国後、私達委員会をバックアップする役割を果たします。次に派遣される生徒達のオリエンテーションが年間で8～10回行われます。その受付や細かな雑務の手伝いに始まり、来日した生徒の面倒を見る（ジュニアカウンセラー）、委員会が企画する旅行の手伝い、自分達が企画したイベント（クリスマス会、初詣、花見、スポーツ大会、留学する生徒の保護者を迎えるの経験談を交えた勉強会など）、素晴らしい活動を展開しています。今では当地区のローテックスの活動を勉強しにくる他地区のローテックスもあります。ローテックス活動では日本で3本の指に入るほど、当地区のローテックスは素晴らしい活動をしています。

しかし、そのローテックスを悪く言う会員の方もいます。「外国かぶれで、生意気。チャラチャラした格好をしておかしい」などのご批判を聞きます。

確かに彼ら、彼女らはハッキリものを言いますし、行動にも個性があります。それは海外での体験から学んだものです。日本では体験できない辛さ（人種差別、心無い扱いなど）も経験し、乗り越えてきた若者なのです。私は彼らをリスペクトしています。それは彼らこそ本当の「奉仕の人たち」であり、本当の「日本人」だからです。20代前後の彼らにとってオリエンテーションのある日曜日は遊びたい日です。でも、彼らは委員会の活動を優先してスケジュールを組んでくれます。その理由は「恩」です。彼ら、彼女らは常に、自分達が受けたロータリーからの「恩」を忘れていないのです。それを一生懸命、ローテックスの活動という形で返してくれようとしています。これこそ、今の日本人が忘れていく日本人の心ではないでしょうか。私は彼らに会うのが大好きです。いや、彼らに会えるから、10年以上に渡りこの委員会をやってきたと言っていいのです。いつか、彼ら、彼女らと直接会って話をしてみてください。きっとその純粋さに心動かされるはずですよ。

今年から、また交換が本格的に始まります。どうか新しいメンバーの皆様にはこのプロジェクトのすばらしさを理解していただき、積極的に応援していただけることを心からお願い申し上げます。

次にインバウンド（来日生）ですが、確かに文化の違い、言葉の違いで気苦労はあります。それでも、それを理解し合い乗り越え、ここにも素敵な出会いがあります。最初は「僕の国では、私のところでは」と言っていた子供たちが日本語を覚え、日本に馴染み、やがて日本のファン、理科者となり母国に帰っていきます。そこには色々な困難をともに乗り越えたホストファミリーと留学生の物語があり、それはお互いの一生の宝物にもなっているのです。

一番最初にあった「面倒みても、手紙ひとつない」これも事実ですが、そうでない場合もいっぱいあるのです。きっとそんなすばらしい体験をさせてくれる子供達にめぐり合えるはずですよ。少なくとも、出した子、入れた子両方がハズレということは、こちらがちゃんと連絡をとってあげればそうそうはありません。きっとすてきな体験を経験していただけるはずですよ。

どうか今後ともこの委員会へのご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

おめでとう

誕生日

3月

結婚記念日



山崎勝己会員 宮本正行会員 畔上順平会員



隅田 敏会員 鈴木二之将会員 杉下 智会員 守屋トミー会員 栗田晴巳会員

〈Zoom参加または欠席会員〉 榎本裕希会員・齊藤 敦会員
千葉宏之会員・仁多見英一会員

〈Zoom参加または欠席会員〉 野寄新吾会員